

心模様 4825 : パリからの年賀状・苦い思い出 116

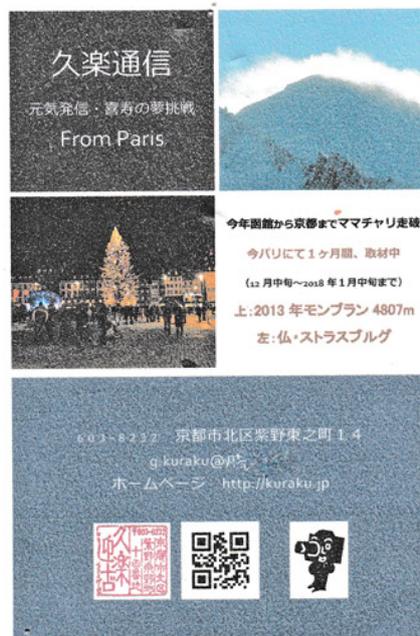
今年も12月突入。年賀状を準備する季節到来。平成30年・2018年、パリからの年賀状投函。年始に到着するかどうかわからないので、下記、久楽通信とした。

数もあって、プリント。**宛名書きは、相手を思い浮かべながら、手書き。**

どうしても、**乱筆**になる。受取手は、心を込めていないと、お怒りもあるのでは。

2018年の年賀状・久楽通信投函は、**350枚**。毎日、パリの夜ホテルでの宛名書きが懐かしい。

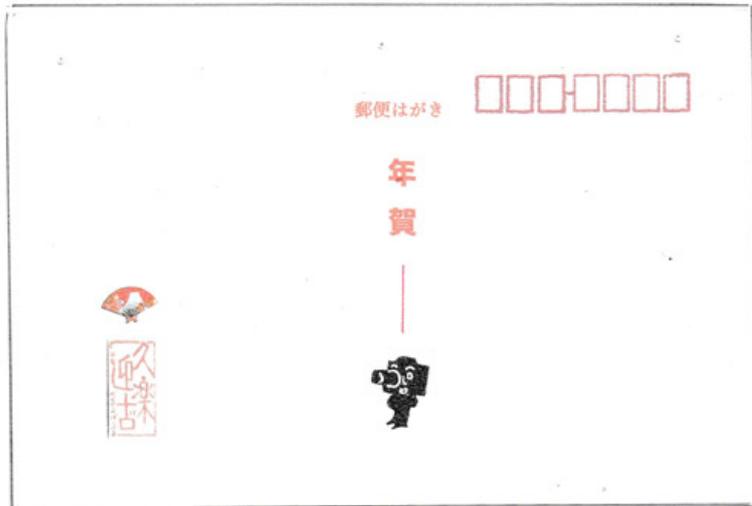
2019年の年賀状は、減少250枚。丁寧に書かないと、と思いながらも、乱筆の失礼。



切手代、@1.32 ユーロ (当時@128円)

切手もお好みのものがなかったが妥協。切手が、パリらしい絵柄なのかどうか？

ハガキの切手代、1枚、168円、反省と記憶に残る、体験になった。

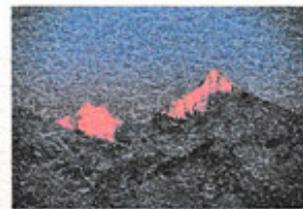


夢挑み 身をけざる日々、
 パリの空 我との戦さ
 懲りず 今年も
 二〇一八年 パリ

手書きの文言も、良かったのかどうか。
 いいとか、悪いとかの問題でなく、**年賀状**で、何を伝えたいのが問題。
 元気で、頑張っています。**元気発信**。愚鈍に**2021年**も。

迎春 2019年

初夢 ～～世界の朝 陽はまた昇る～～ 夢絵作家



〒603-8232 京都市北区紫野東野町14

g.kuraku@_.

ホームページ <http://kuraku.jp>



迎春・迎古 2020



2018年1月 パリ



富士山



2019年1月 ニューヨーク

〒603-8232 京都市北区紫野東野町14

g.kuraku@



ホームページ <http://kuraku.jp>



2018年、パリで、素敵なポストカードはないかと、探したが、枚数も多い。

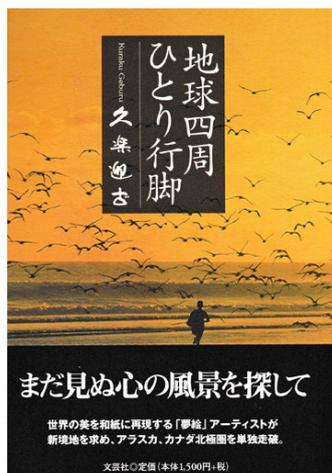
見つからなかった。万一を考えて、上記、久楽通信を準備。

切手を貼る作業も大変だった。**サンザラール駅前**の、**郵便局員の方**にはお世話になった。

ようやくのことで、年内に**350枚**、投函することができた。予算も想定外。

古い話だが、アラスカの旅の途上で、作品展の案内状、

宛名だけだが、**1,200枚**、「地球4周ひとり行脚」の本に、書いていたのを、思い出した。



アンカレッジへの途中 ログハウスの部屋で

雨の中、バイヤークリークステーションに到着した。次の町まで相当の距離があり、道路の情報も乏しかった。雨も激しく、急ぐ旅でもない。この日はこの周辺での宿を探すことにした。ログハウスの一軒宿を見つけ、チェックイン。価格は六十五ドル、夕食は簡単なものしか準備できないとの話。隣には雑貨店のようなコンビニがあった。

前日、車中泊だっただけにベッドに寝られるのはありがたい。少し冷え込んできていた。部屋には簡単な厨房もあり、火を使うこともできた。車から飲み物や食べ物、食材まで持ち込んだ。日常から自炊している。それだけに要領がいい。

周囲は緑がいっぱい、空気が美味しい。まさに自然と一体化したような気持ちになる。

日本では決して味わうことのできない嗅覚、視覚、そして聴覚。誰に気を使うこともなく、

のびのびと時間を楽しむ。部屋にはストーブがあり、暖房も効いてきた。心地もいい。結構楽しいものだ。山の冷気は、靈気に通じるのだろうか？ あれほど疲れ、精神的に参っていたにもかかわらず、ここでの休息は、空気の薄い、五千メートルの山頂で酸素吸入器を口にしたようなものだった。

ログハウスの部屋から周囲の山々に目をやると、いったいの雪景色。窓を開けると冷気が頬を撫でていく。この幸福感を独り占めにしてもよいものだろうか？

しばらくして、コーヒーを飲みながら、夢絵はがきを書き始めた。平素から宛名は手書きと決めている。手書きというのは、相手の名前を憶えるのに役立ってくれる。顔も浮かぶことが多い。今頃どうしているだろうか？ 日本は、今、何時頃なのだろうか？ 部屋にはテレビも音楽もない。静寂そのもの。こうした旅のスタイルが原因だろうか？ 時には、人恋しくもなる。昔のこともいろいろ浮かんで消える。この日の就寝は、夜の十二時前だった。

翌日は、ホテルのそばにある小川を流れる雪解け水の流れの音で目がさめた。午前四時

だった。これまでにない快適な目覚めだった。体調もすこぶる良好。いつものくせが出て、すぐさまベッドから起き上がり出発の準備を終える。天候はこの日も曇り、天候次第で、すぐにも出発したい。

それまでの時間を有効に活用せんと、机に向かい昨夜のつづきの夢絵はがきを書き始めた。日本から持参したはがきの合計千二百枚、一日四十枚書いて一か月で消化できる計算だ。時間が経つに従い、乱筆に乱筆を重ねることになる。丁寧に書かねば相手に失礼になると、重々承知していながら、つい物理的になる。時間不足を理由に、いまだその傾向は直っていない。

いっそのこと、はがきなど書かない方がいいのではと思うものの、性分というか失礼を顧みず、いまだ同じことを繰り返している。

天候も大きくは変化しそうにない。アラスカ晴れは、宝くじに当たるようなもの。一区切りついたので、出発することにした。天気が良ければ、未練が残る。デナリに戻るか、南下すべきかと、ハムレットのように悩む所だった。この日、南方に位置するキーナイ半